

1.17から3.11へ

1995（平成7）年1月17日早朝、死者6,434人、負傷者43,792人という甚大な被害をもたらした阪神・淡路大震災が発生した。その震災から力を合わせて復興を遂げた神戸市は、東日本大震災発生直後から官民を挙げて東北の復旧・復興に力を尽くしている。そんな神戸の人々は、どんな思いから私たちに支援してくださっているのか受け止めよう。また、これから私たちが行うべき復興や支援の在り方も考えよう。



東日本大震災の被災地で活動をする神戸市の舞子高等学校の生徒たち

1 「幸せ 運ぼう」に込められた、震災を風化させない神戸市の思い

神戸市では、平成7年の阪神・淡路大震災後、震災の中で得た教訓や体験をまとめた防災副読本小学校版「しあわせはこぼろ」・中学校版「幸せ運ぼう」を作成し、神戸市内の小中学校の児童生徒が防災学習などにおいて活用するよう図ってきた。現在、小学校版「しあわせはこぼろ」・中学校版「幸せ運ぼう」は、神戸市内の全ての小中学生に配付され、災害対策の仕組みや被災体験の理解、災害時の身の守り方の学習などに活用されている。震災を直接体験した児童生徒がいない現状を踏まえ、震災当時の状況について、理解しやすい写真や命の大切さを考えさせる作文の他、東日本大震災については、仙台市の防災副読本と共通の資料も多く掲載している。



神戸市の防災副読本「幸せ 運ぼう」

2 復興のシンボル曲「しあわせ 運べるように」

阪神・淡路大震災の直後に、神戸市内の小学校の先生が作詞・作曲した「しあわせ 運べるように」は、神戸市民の希望の灯となり、今も市内の学校や追悼式典で大切に歌い継がれている。また、東日本大震災後は、歌詞の「神戸」の部分「ふるさと」に替えて歌われることがある。

しあわせ 運べるように

地震にも負けない 強い心を持って
亡くなった方々のぶんも 毎日を大切に生きてゆこう
傷ついた神戸を もとの姿にもどそう 支えあう心と 明日への 希望を胸に
響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
届けたい 私たちの歌 しあわせ 運べるように 出典：「しあわせ 運べるように」

3 ～命の尊さと震災の教訓を語り継ぐ～「子どもたちへのメッセージ運動」

阪神・淡路大震災から10年が経過しようとしていた2004（平成16）年、神戸市では、命の大切さや震災から学んだことを子供たちに伝えるために、震災を経験した市民の方からメッセージを募集し、子供たちに届ける「子どもたちへのメッセージ運動」を始めた。寄せられたメッセージは、毎年1月17日前後に行われる「子どもたちへのメッセージ運動展」において、市民ギャラリーに展示するとともに、メッセージ集にまとめられ、市内の各学校に届けられた。この運動は震災の時に生まれた子供たちが成人する2015年まで毎年続けられ、10年間で2041通のメッセージが寄せられた。



「私が震災で感じたこと、命の大切さ、物の大切さ、人の優しさ、温かさ、震災で学んだことはたくさんあります。当たり前が当たり前ではなく、すべてのことに感謝ができて、普通に生活できる幸せを……。今のあなたたちには、想像もできないことかもしれません。でも、もし自分が、こんなにつらく悲しく、苦しい状況になったらと考えてみてください。そうすれば、人にも物にも優しく、そして命の大切さ、生きているすばらしさを感じることができるかもしれません。人や物や自分を傷つけてしまっている子どもたちへ。もう一度震災のことを聞いて、見つめ直してください。」

（子どもたちへのメッセージ集2012 から抜粋）

4 被災地どうしの輪 全国中学生防災サミット in KOBE

2014（平成26）年8月、神戸市は、これまでの自然災害により被害を受けた地域の中学生を神戸に招き、防災サミットを開催した。仙台市からも中学生が参加し、「仙台市児童生徒による故郷復興プロジェクト」の取り組みや、小中地域連携の取り組みについて発表し、全国の中学生と意見を交わした。そして、参加した中学生全員による行動宣言「結 2014 ～未来への決意～」を発表した。被災地の中学生がつながり合い、支え合う輪は、今も全国に広がっている。



防災サミットに参加した全国の中学生

【結 2014 ～未来への決意～】

- 1 私たちは、自分たちの地域についてさらに興味を深めます。 （地域の知恵をつなぐ）
- 2 私たちは、「まさか」に備え、常に危機感を持ち、そして災害時には強く生き抜きます。 （災害時の教訓をつなぐ）
- 3 私たちは、笑顔と優しさあふれる地域づくりのために、行事を通して人と人とのつながりを大切にします。 （地域の人と人とをつなぐ）
- 4 私たちは、中学生にできることを考え、地域の方と共に未来の「まち」を描く担い手となります。 （未来へつなぐ）